



秩父独案丹記

綾足作

中村俊定文庫
文庫 18
1042



秩父系内紀

席家藏

永存延壽

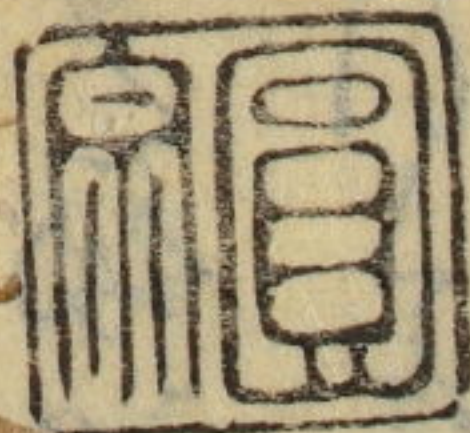
寛保能々天の... 吉田の里... 編... 柳... 糸... 波... 柿... 杉... 由... 純... 織... 向... 折... の... 便... 里... 糸...

秩父系内紀

廩内記
 秩父獨

強くは見えしを以てしるる事
 ありしに秩父の事由記とあり
 侍りぬる如く山とて記しん人
 此書とてしるる事由記とあり
 之缺とて記しん人

正享甲子三月 家述



秩父
 廩内記

一



秩父路の記

一名案内記

武藏國秩父郡ハ、往昔秩父の國と
 号して、一國なり。後、武蔵の
 一郡やうし給ふ。其地豊饒なりて、土産
 甚多し。其号と秩父と云ふハ、土積と
 いふ訓に、土積で山と云ふの意
 なりと云。是秩父の人ぬま云傳
 へて、説なり

舊事記曰瑞籬朝御世八意思無命十世
孫。知知夫彦命定賜國造拜祠大袖
ト云

按るに國造の二字、うまけりや、
うまけりや、徳祿なり。うまのまやつこと、
とゆれ、神武記に推根津彦と大和の國のまやれと云、
ゆまあり。是日本國司の始なり。名は八御奴と云意也、已上

又親世音の靈陽とかなるなりハ三十二番
般若の古記に、行基菩薩定靈符あり、
あり。其後無廢なるとして、
そん

たり或は後へて新よめ、
跡ハる、著は示の。久通傳よ妻、
い、なよを、
も一定なり、
く、あ、
文曆元年甲午、
今頂堂の次、
年の年とを、
開帳、

は因縁なり。一祝子。秩父の靈場。十三人の化人。踏分。後よ。我。折。は。ゆ。靈場の舟。終。及。と。再興。一。拾。ん。子。権化の人。と。お。来。り。く。巡禮。と。さ。く。秩。給。い。一。なり。給。べ。一。是。と。十三人の権者。と。称。し。て。其。縁。と。刻。す。は。安。置。は。け。る。い。世人。並。く。知。所。あ。も。く。と。安。く。其。名。と。何。も。と。十三人の化人と。巡禮の始。祀。也。

仰く事。静觀堂が仮名縁起。よ。ふ。と。ん。る。せ。は。此。偏。子。を。し。て。△江戸より秩父。第一番。の行程。

凡。江。部。より。秩。父。の。道。三。筋。あり。と。の。く。巡。禮。の。意。を。せ。て。行。む。は。偏。に。之。を。か。ぎ。り。わ。げ。て。巡。禮。の。人。子。傳。り。に。但。し。当。時。ハ。川。越。通。り。と。頭。路。と。さ。る。人。の。由。り。一。中。山。道。熊。谷。迄。是。を。し。げ。て。吾。野。路。と。秩。父。より。江。部。に。往。る。高。客。の。と。過。り。て。江。部。に。巡。禮。の。人。の。け。ら。し。と。さ。る。事。か。し。商人。ハ。利。と。と。し。て。行。路。の。難。と。思。う。と。行。程。の。遠。と。以。て。

○案内記

修子に以道あり。往來せらる。婦人かゝる。修子
を去る。路あり。に。う。ま。や。詩。歌。連。佛。よ。ん。と。
ら。皆。さ。ら。ん。人。の。目。と。あ。ら。こ。り。せ。ゆ。ん。こ。と。
う。あ。ら。ま。り。も。い。道。毎。そ。う。足。弱。の。道。連。
ふ。に。あ。ら。ま。い。吾。地。路。を。過。り。て。古。跡。を。尋。
探。吟。の。た。り。と。一。路。よ。る。一。この。乃。の。名。亦。ハ
武。翁。野。地。名。考。よ。る。一

○第一川越通 江戸より北三里余

△^イ本郷森宿 宿
い。下。に。進。分。あり。と。ま。く。に。行。ハ。岩。付。道。也。

△^イ左(河)板橋通平尾町(お)びる左太細也

△平尾町

進。分。あり。左。の。方。ハ。中。山。道。下。板。橋。あり。左
の。方。川。越。道。上。板。橋。十。町。元。御。上。水。乃。
小。橋。あり

△^イ上板橋 日本橋より二里 馬つと向をわり

△^イ移り海(北)六所
移。り。海。の。宿

白子所(を里十所。けるは赤塚と云ふことあり。松月院とて古くは禅林あり御朱印地常會なり。此地は千葉の古墳あり。又吹上(うきあがり)の観音とて靈地あり。

△白子所

ひざ折(ひざまげ)を里。け間原あり

△おさ(おさ)宿

馬次(うまじ)向(むか)あり

△野(の)中(なか)田(た)

けさ(けさ)州(しゅう)を渡(わた)り。御(ご)殿(でん)の西(にし)の方(かた)に大(おほ)寺(てら)あり。平林(へいりん)寺(じ)と号(ごう)す。高橋(たかはし)御(ご)城(じょう)主(ぬし)家(け)の御(ご)善(ぜん)提(だい)所(じょ)とて。御(ご)陳(ちん)屋(や)もあり。海(うみ)道(みち)より半(はん)里(り)西(にし)あり。地(ち)間(ま)を里(り)

△大(おほ)和(わ)田(た)所(じょ)

地(ち)所(じょ)より中(なか)野(の)村(むら)の間(ま)は川(がは)あり。昔(むかし)は川(がは)越(こ)えどこのをて後(ご)に近(ちか)き土(つち)橋(はし)あり

△中(なか)野(の)村(むら)

矢(や)人(びと) 案(あん)内(ない)記(き)

△菟久保村

川越御殿あり。是より川越御殿あり。

△大井所 馬次同をわり

川越の里。大和田町あり。川越の里

△龜久保村

此より左に武蔵野の井あり。

名所あり。川越より二里

△龜岡村 △菟間村 △砂新田 橋あり

砂新田と名村あり。幸より川と
つふわん橋あり。

△岸村

岸村あり。此所より仙波新田

下板並あり

△仙波新田

仙波星野山。極量壽中院あり。天台宗の
檀林あり。御宮あり。別名多院御達。

立地あり

△通所

入子。本戸あり。先手所とも云。以間八所あり

△松郷所

へ。子。本戸あり。左子。津土宗檀林蓮馨寺

あり。石原橋あり。十又所あり

△江戸所

川越。御城大。口。い。と。と。三。り。御。と。ら。り

△い。ら。り。御。の。天。神。と。く。靈。社。と。り。御。と。ら。り。

△城。内。よ。御。鑑。座。別。者。高。松。院。御。建。立。取。之。

△本。所。 △高。沃。所。 橋あり。ス。り。と。り。

△石。原。所。 △寺。山。村。 川。を。入。る。川。の。末。之。橋。不。り。

△鳩。田。村。 川。あり。橋。不。り。 △高。板。村。 石。原。より。三。里。

△高。板。村。 高。板。より。二。里。い。る。に。川。を。橋。不。り。

△小。川。宿。 石。原。より。二。里。 △安。戸。宿。 小。川。より。二。里。

△坂。本。宿。 や。と。り。二。里。 △四。万。部。 三。り。と。り。一。里。

○第二熊谷通 中山道戸田區一番札所より共六里

△板橋 日本橋より二里余

此る戸田の後あり。川を渡り入間川とす。

入間川村。戸田村。元蕨村なり。云々氏

家の所あり。あ後山ふり。野原道あり。

△田畑多し

△蕨 板橋より二里

△浦和 日本橋より一里半

△大宮 日本橋より一里十町

是の右一の宮と稱し。海接し桶川へ路あり

△上尾 大まより二里

いざ村。観音堂あり。町屋村とて氏

家あり。いざとて山あり。野原なり

△桶川 日本橋より二里

町家数多あり

△鶴巣 日本橋より一里二町

民家多し。所のおほし。日光山へ行く。箕田村の中。八幡の社あり。後色の網と祭ふと我。勝利寺とて浄家の檀林あり。是より二里四所行く。吹土の宿は多し。

△熊谷 とうのとうり四里八所

宿の入りは親父川橋あり。高城大明神の社あり。蓮生山熊谷寺とて空実法師の

旧跡。浄朱印三十石の大寺あり。蓮生不持し。什物あり。熊谷と出て。八九所行くも。左は細江あり。け取は秩父道の傍。あるけ取あり。寄居まで行く。其間。回舎及中。石系。廣瀬田中。尾田あり。川なり。ふ小村あり。長田とつ。あはさ。の系屋あり。さ。尾田。荒川の間に長交原中あり。さ。な。

い通五飯よあつるままのふ一行人
が成るるゆへ

△小前田 馬次あり、熊谷より凡四里

△寄居 所あり、あ田よりを里

△え宿 兼屋あり、寄居より十所余

い間左の山のふもと正龍寺といふあり。

小保家の位牌あり。於鉢形の城に夜

よおわく刺髪し。鎌倉へ引籠るを

いとまのゆき委くハ大岡記よ見へり。

むくハ山際の清龍寺といふなり

△末野 え宿より十所余

山ふ少林寺花園山をといふあり

凡寄居より野上より三里に所あり

宿屋あり。入子惣持寺といふあり。法燈

園師の開基といふ。靈佛の文殊あり

△野上 今寄へ三十所

夫の

△金崎

川あり舟りしは是より皆野村へ出る。

山間より福寺と云あり。平親王并は

後父重忠父子の墓所と云傳へし塚

あり。後より黒谷へ出る。一番田へ出送る。

金崎より一里北所。又赤居より荒川と

後をた。金伏作と云。雑所ありとも。一畝

二里中をせし。い通と行人を風布と

し。村より名木の松あり。まきあてなるへし

又金崎より大園へ出る。十八所あり。

は村より藤生福荷の二社あり。ある宮

なりとも也。又大園より芝園へ出て

三十四番へ出路あり。是は逆より巡行路

筋なり。左の方より高松村大通院と云

禅林あり

○第三吾野通

日本橋より吾野より九十六里余

△江戸の谷

田かし村より四里

但新宮より淀橋へ行く。右へ行くもさき
井戸へ出さ

△田かー 泊前より平沢村まで二里

△所沢 泊前より二里

△らんのか あが村より二里

子の権現まで四里。但子の屋へ入ると
して。むす子行もむす子行。大がのり坂と
つゝ。惣じてい通る。後八番へ

順路く四角のへ。送也子権現が八番へ二里。
谷あいの細路より。後とて水え路より。
八番分三番を。送也子巡り。後とて水え路より。
通ふも二番及び川越通。田は通。府中へ通之
府中へ二里本遠。是ハ江戸四谷分高井
戸へ出て。府中分神及之。武蔵野砂川村の
根橋。古布谷久松合子屋と。後又淀橋へむさ
し。此の地より。平比なる。い通。古跡多し。

○第一番 四町 二番 二十二町 三十町

け所いありくハ。朽木村とらつる。通徑塚と
築きし一ありを。四町 二番 二町 二町 二町
其塚ハ今も寺前まへあり。十三人の影像
ハ。札堂さだの傍わらあり。門かどハ茶店ちやてんなり
旅籠屋りゆうりやあり。二番 一町 坂あり。路みちハ
二町 一町 一町 一町 一町 一町 一町 一町
二町の細道こほみちと云ふ。十町 一町 山へく

二の河平にのかわらのほこえ。清水あり。五丁 唐から
け源しげと高藤山たかふぢやまあり。おふなりといふ。向むか
常とこよ茶屋ちややあり。又深とこいッ子細道ありて
二町 一町 一町 二番の札所さしどころなり
○大柵おほさく 一番 二番 一町 二町 三町
此寺このでらの園祖のゐり大柵おほさく禪師ぜんしの墓はかあり。石いし
花丸はなまると云山あり。東ひがしの方かたより見る。松まつ言ことも深とこ
と續つづく。谷川やがわあり。松まつ言ことも深とこ

つゝ 洞^{たたら}の所^{ところ}をめぐり行^なる。左^{ひだり}の方^{かた}の松^{まつ}
山^{やま}は小^こ社^{しゃ}あり。勲^{いん}伐^{ぼく}の宮^{みや}とて。古^{ふる}処^{ところ}ありと
そ。是^{こゝ}より一^{ひと}所^{ところ}程^{ほど}は光^{こう}明^{めい}寺^じあり 御^ご朱^{しゆ}村^{むら}と
印^{いん}地^ち村^{むら}と
山^{やま}田^{でん}と云^い。茶^{ちや}店^{てん}後^ご館^{かん}あり。之^{こゝ}番^{ばん}へ行^いく者^{もの}
小^こ川^{がは}あり岸^{きし}あり

○ 岩^{いわ}本^{もと}・三^{さん}番 四^よ番^{ばん}へ十三^{じゅうさん}町^{まち}五^ご間^ま

山^{やま}の形^{かたち}なりを長^{ちやう}命^{めい}水^{みづ}ハ。庭^{にわ}あ^のの井^いあり。
子^こ産^{さん}石^{いし}ハ御^ご堂^{どう}の傍^{かたわら}あり。不^ふ懸^{けん}石^{いし}と

山^{やま}よりあり。又^{また}岩^{いわ}本^{もと}の傍^{かたわら}と云^いハ是^{こゝ}より。水^{みづ}ハ
所^{ところ}をめぐりハる。茶^{ちや}店^{てん}へと又^{また}小^こ川^{がは}と後^ごの坂^{さか}と
の分^わ子^こ。細^こ道^{みち}と通^{とほ}てい。終^{すま}ハ

○ 荒^{あらい}木^き 四^よ番 又^{また}番^{ばん}へ十三^{じゅうさん}町^{まち}十六^{じゅうろく}間^ま

山^{やま}の形^{かたち}なり。え。觀^{くわん}世^せ音^{おん}の立^た給^{たま}ひ。一^{ひと}所^{ところ}なり。
是^{こゝ}より後^ご子^この石^{いし}ハ。高^{たか}の篠^{しの}なり。夫^{こゝ}より茶^{ちや}店^{てん}
あり。後^ご館^{かん}あり。又^{また}番^{ばん}へ村^{むら}路^ぢ

○ 結^{むす}軟^か寺^じ・五^ご番 六^む番^{ばん}へ十一^{じゅういち}町^{まち}十六^{じゅうろく}間^ま



一番
四方部
浄住塚

本比たり。別者の院ハ寺河半反あり。
 りよるまふも六曲へ小川あり。横瀬川と右
 の川ありして通系

○萩之堂。六番 七曲へ二町三十間

森の中たり。別者ハ次と云ふ所あり。
 村路と七八所も奥たり。びあり宿屋
 あり。七番へ村よりあり

○牛伏。七番 八番へ十町三十間

矢心
一ノ内記

平地なるを武甲山と前より修り。比邊宿
屋茶屋あり。村はすべて横瀬とて分ぐらう。
牛依川流るる云ハ皆此所の小名之ハ昔
横瀬川ニツラる茶屋あり。比邊より武甲山
あり。比邊より来て同なる

△岡谷風土記。修父の嵩ハ昔勇者の怒て立たりぬ
と日本武名に比邊とあり。東征のとき武具と
くは納めたり。是れより為國号ト云人皇十代系行

天竺才二のるる。日本武名。東夷征伐の爲下り
修ひ。修父嵩とて修ひ。今武甲山武人由り立と
あり。神代より。之耶志根と名付り。其れハ人由
立付る。修父の字と中畧して身枝ありと。通
者なる由は。身とむと。さとお通なるは。修を
さしとて。比邊より身枝。又その武具と納修小
といふより。比邊の文字より入りとも云ふ
△一統より武名爲國号。既より呈武武崇文之祥故
北山以標二國。謂武藏根下云。比邊の字宮ハ。少名
彦名とて。比邊に修り。比邊と修り。比邊と修り
あり。比邊と修り。比邊と修り。比邊と修り。比邊と修り

扶元
山標日記

山標日記

十五

あらしにしつあふか。い非と醫術の非と孫とて。
 平安城西の洞院もあ、天非の社と云是り。又大通権
 現徳那推現とある。十二の末社あり。其外いふふの
 世は神多ふ。又飯盛とて左の方より
 抽ふふ等あり。是ハ子餉まの也。流ふふありと。
 小橋。大さくら。鵜掛。幕岩。曹石。雪石。ケケのふとこ
 あり。皆是ここのの回路なり。二子山とてのふとこ
 右の方よりあり。祇子左杜の羅立似見孫とてのつ
 うとて。いふふは重忠の流系。和秀とて云はれふ
 ふあまど。畧とて。又芭蕉翁のうとて。いふふのふと

云はれふふあまど。まのふとてのふとて。同のふと
 のふとて。あまど。まのふとてのふとて。

か。まのふとてのふとて。まのふとてのふとて。
 ○按よ。いふ曹氏。和秀とて。流系。和秀とて。流系。和秀とて。

○西善寺。八番 九番へま河十六間

平地。是より東の方を所なり。に。少徳氏
 邦の土城とて。なる左の方より。九番へ
 右の御堂の右より。表道とて。小川と

坂あり。やまのしるを山間くさりたまり

○明智寺・九番 十番(十九町二十番)

平地は御堂ら。又も徳教寺の持く。十番(六

小川少坂も。是ともぬもて留路終ハ

○大慈寺・十番 十一番(七町十六町)

山もあり。長者屋敷の跡にありて終ハ

十番(小坂と越へて右へ入は坂より左を河

がり。また女の池とてある。程吉老の云終り

瓶抄付

○坂氷・十一番

十二番(十一町十四町)

け原より南向石と穿ぬへ。十二番(八町

を水よりて左の細路と入系

○野坂寺・十二番

十三番(八町二十八町)

心もあり。奥の院ハ後の山もあり。武甲

山への道あり。十三番へて右白鳥らりこ

○旗下一・十三番

十四番(五町四十八町)



大宮所裏あり。十二神の影像あり

○今宮・十四番 十六番へ西所又十間

八丈宮あり御朱印地 十二番へ西所と通ふ

○慈福寺・十五番 十六番へ西所二十番

い寺と申す。右の方子妙見宮あり御朱印地 この

文大己貴尊と法在い何と大宮と云。大己

貴尊八日吉大宮権現ありと云。亦の号と云

る。をより示あり。多禮ハ上月二日の書

と云くあり。者い文よ付てハ聖徳太子神

社本記曰我是北辰精也。彌妙見大菩薩白普

此國人名我曰天御中主尊七佛八菩薩所説

神呪經曰我是北辰菩薩号妙見陀羅尼畧之

漢書曰祭大之。以昏時是と云て書時と云

ふ。妙見宮の統る。世と云て他ふ。者い文よ

付てハ神祕のつり多し。我ハい處と

柞の森と云。古書よいつる柞の森ハ山城也

扶公 (一) 案内記

一十七

とうきん山等の所トは海とていふ

ふくまの祭紙とていふやわ川むら 紀貫之

○西光寺・十六番 十七番(七町四間)

平地あり。十七番(左の細路より入る)

○林寺・十七番 十八番(十町二十間)

平地なり。十八番(入る細路あり)

○神門・十八番 十九番(十町四間)

久代是より海(出入)右の方より廣見

あり御朱印地道の右より坂東閣とて堂あり。又

八番の別當ハ大宮の裏十六番(出入)路ハ

も何なり

○龍石寺・十九番 二十番(八町六十間)

御堂岩とよまてり。二十番(下り)乃荒川

と後舟ありナヒ 荒川古書ニ見(タリ)未、隅田川ニ浴ル

○岩之上・二十番 二十一番(六町十間)

此地よりいふ岩なり。岩下と下りハ乳あり

山ノ内記

場あり廿一處（山ノ内）宿屋あり。山ノ内下（山ノ内）

○久之堂・二十一番 二十二番（六町四間）

高（山ノ内）山ノ下（山ノ内）宿屋あり。是より山ノ内

○童子堂・二十二番 二十三番（十六町半間）

山ノ内（山ノ内）三番（山ノ内）宿屋あり。田村

より上家あり。各福寺見ゆ。又二十

三番の裏より小麻路吉田の宿（山ノ内）道

あり。二十三番（山ノ内）八人峠と云と通す。

川あり。乃を里餘。田村よりあり。宿屋あり。

八人峠之事。團通傳。委（山ノ内）八人ノ
塚圓福寺ノ裏ニアリ

○小麻坂・二十三番 二十四番（二十八町十間）

山ノ内（山ノ内）大（山ノ内）出（山ノ内）林ノ内と云。

舟あり。武の鼻より二十町あり。一川其

外（山ノ内）下り多（山ノ内）宿屋あり

○白山・二十四番 二十五番（二十三町二十六間）

山ノ内（山ノ内）階と云。二十番（山ノ内）一川あり

山ノ内記

くざりゆり

○久那 二十五番

二十六番(二十九所)十二間

此代縁起と以て考ふ。昔ハ人家もふり
し。や。今も一村庄家とあり。山も又
一。二十六番ハ荒川と後子。比川より
の向うに岩場あり。常少ハ川の案内と
なり。其家も五つ。荒川あり。後子
ハ山とあり。久那の山越して。二十二番

之の間の間と巡ふべし。此通ハ二十九番

れと納まよ。一。根けり。此と同一

○下新森 二十六番 二十七番(十一所)六間

山より麓に家あり。宿屋も御堂ハ村あり

八所のが。此七番(ハ)り。村と行く

○上新森 二十七番 二十八番(十三所)十四間

山のふもとに宿屋茶屋あり。二十八番(ハ)谷川

二津(ハ)川

矢野

○揚子二十八番 二十九番一十八町六十四間

山あり。岩根と血川く入る。御堂の後とて
岩あり。け洞中は異境あり。霧の海ハ標の
川よりあり。標者ハ十四番の標あり。廿九番一
ら山村と通ふ。小川あり。又浦山川とありと
ワラカ。諸の里あり。後と同ふべし。是より
目録一石山の太日堂への遊あり。右
のり。○標より遊付より二里の遊付より一石山

あり。四里半。○一石山あり。念次大日の岩あり
三十町。○一石山あり。富士山へも。こり
時氷川と云へ。標者一里半。○氷川あり
井戸地へ九里半。○井戸地あり。標者一里
○標者あり。矢村より三里。○矢村より
三里。○吉田より大月の茶屋より三里
○世之戸。二十九番 三十番一里三十五町二十八間
諸あり。ワラカを越へ。左の方。二町餘。世の

戸の山なり。右よの細路をとついで。戸の
右村と云よ別表あり。世の戸ありと出く
上田孫村と云あり。宿たつた左の方に。美法
兎山あり。十二社推現と云。此分。是より暗
夜川と云とつり。心村と云。上下の
谷。此谷あり。此宿あり。深谷へ入るよ白
久村と云ふ宿あり。

○深谷・三十番 三十一番（三里三十二町

心の手つらんの奥の院と云。之町入く。観音堂至
不動の三尊あり。此宿あり。此宿あり。又白久村
洞中も有。是より二十五六町あり。又白久村
と云ふおれ。此宿あり。宿あり。左よ大日向
へ入る。此宿あり。及之里山路檢し。茶店
後郎あり。之里山へも之里是よりあり。此
越えられも。甚難所あり。此此日向山大陽
寺あり。佛國應供廣濟國師開闢。結へ

佛國應供廣濟國師開闢 結へ

不靈場あり。國師とて。後醍醐院才三の
 皇子をせおかりし。ふと我。二十二歳なりて
 正法眼發し。あひか。て。法園は靈場
 と稱ふ給ひ。所は現世なり。年七十
 五歳あり。臨寂し。給下。偉と高。名。取
 日大和あると。り。も。是。り。穀。古。左。の。物。諸。あり。
 川の法。や。國師い。山。ま。く。ま。こ。お。り。折。し。に
 村。丈。も。湯。酒。と。持。來。つ。ま。り。の。り。折。た。に

ありありと。こ。こ。一。先。ま。き。り。ね。だ。各。う。あ
 笑ひく。お。あ。一。首。と。う。さ。て。ま。る。ま。た。れ
 心。居。く。と。公。と。り。ま。り。に。誓。修。の
 に。ら。り。酒。と。ば。何。と。合。う。ん
 國師より合。と。う。り。と
 山。居。く。の。む。な。さ。ま。の。酒。酒
 と。り。も。誓。せ。ま。と。む。身。だ。ら。ふ
 と。興。し。給。ふ。と。ま。つ。り。其。外。靈。驗。幽。玄

書

雲内記

九四

たり。其事もゆきと満る川。西師發後
 と利給ありもかりり。まはさ。水人。猿橋
 と。中。そ。先。あ。ふ。と。ち。り。り。寺。の。後。八。十。二。社
 権現とあり。ま。お。靈跡かほし。各。家。ま
 来りて。そ。あ。金。一。ま。あ。大。陽。寺。よ。る。三。等。寺
 よ。登。らん。め。ら。と。心。越。ち。り。れ。を。う。く。く。果。内
 と。と。か。べ。一。容。易。の。道。も。あ。く。は。又。本。道
 よ。り。と。登。ふ。も。あ。大。日。向。と。ら。り。落。川。と。と。

村より川と後。大田原へお系。〇三等山。取
 観白久村より。川と。り。り。追。か。あり。契。川
 所より大田原へ一里半。げ。間。越。那。桑。村。小。林。村
 な。よ。と。云。る。大。田。原。よ。り。七。所。下。り。大。橋。村。之
 又。大。田。原。通。寺。と。云。ふ。平。親。王。将。門。の。御
 親。あり。大。橋。村。と。下。り。橋。と。後。ふ。け。橋。長。サ
 十。二。間。丸。木。の。一。本。橋。あり。ま。ま。と。と。と。て。之。峰
 一。の。寺。居。あり。是。よ。り。り。法。坂。又。十。二。所。坂。中

又庵あり。精進場とて垢離とてふあり。
 北御山女人禁制あり。を大と急赤俗の
 徒心ゆへー 別當 観音院 凡い三峯より級行者の
 開闢ともや。本宮大権現ハ伊弉冉のそのの
 系伝熊野御一社あり。本北ハ一面觀音
 とぞ。もうー文武天皇の御宇没行太保
 豆園よさよーいふがー。夜をく留士よ
 のがー。秩父の飛行ー。雲採。白峯。妙法

の嵩。各々三峯よおおや。修法ありーと
 其後法海公の御娘光明后宮別乳の
 子細ありー。昔城の好久とつらびて。
 守成あり。先。土面親善と安置るるふと
 あり。且北山よ三峯あり。又靈香二
 羽つ棲く急流の人と名あり。子信あり。
 智く能ありて。田畑とち獲ー。徳歎と
 入まると。為累せよと傳ふ。非妙。救世

矢心 〇 〇 〇

知くは。城はふるさ御山あり。又重忠公の
 の御書ホ。其外靈蹟多し。夜より大日
 向へりふりあり。必兼代とふら。一
 之十一番へら。白久村と川とり。そ
 右の路とのぼり。日向村とふら。そ
 ちより谷の茶店一軒たりあり。路之
 且け路とふら。あそ。石井村とふら。あり。
 是より又北とふら。道分。左の路

をより入る。瑞沢村とふら。あそ。越へけ。あそ
 つも谷間たり。小森村とふら。あそ。宿屋多し。
 又茶師堂村とふら。あり。一つは。茶村ともふら。此
 茶師堂とふら。入回二年弘法大師建立也。あそ
 と。我。靈験とふら。著し。別名とふら。阿豆山法
 粮寺とふら。御集。い村とふら。あそ。何かめ。あそ。左の方
 は。三十一番へら。入ふ。道分。あり。ける。は。と。川
 この山にあり。上つて。西の方。よ。山。中。領

新編 東国地誌

十一

どのよ下為村子仲吉藩といふ老の妻
 後日わらびして母やうりぬまうか
 ようもかざう。あつていふ
 甚子とあつてあつてあつて
 世のいふこのかたりが
 田村の良き藩といふ老の妻とむくても
 然るは継母かざうの子
 産る老のこゝ。

恨の何れ我子と産る
 非佛よわらびもあるか
 もふもや。忽懐胎して一人の男
 母懐くはるもふく
 と接育と。うも乳細
 と産るよまうは。は
 織よあといふよむく
 産るよめく。あつて乳

美子の飢えん。夫の心あ。者ら。又亡母
 の妾もいらん。あせん我産る子と
 しあひても書とく。産ては婦人の心
 先と。一命は先妻の子との。難育し
 とのが産る子。一向う。そもせざり。れバ
 日。は。腹の。後。は。も。心。は。思ひ
 切。先婦の子。は。り。乳。が。と。め
 め。は。子。は。死。ぬ。腸。と。断。せ

一も。継子が。犯。して。生。る。よ。あ。ひ。て
 心。を。く。先。今。は。易。し。と。ひ。の。修。養
 育。せ。り。い。ま。も。け。志。と。知。感。敬。し。女。の
 中。い。と。同。者。友。里。人。も。善。く。知。て。感。せ。と。と。云
 り。の。か。し。是。ホ。ハ。唐。の。大。和。の。文。子。記。し。吉。人。の
 行。跡。も。か。く。お。は。し。余。も。有。難。志。か。は。バ
 世。の。人。あ。も。知。く。折。由。何。く。あ。く。な。よ
 ち。一。ゆ。ふ。片。の。か。り。ゆ。る。烈。女。義。婦。も

孝行記

七

宗のうけとふかかなぶる。貝殼多く取返し
 てわり。とていあさるの谷向くの？とさ
 のりゆりまふとど。漆海の産したるや。
 統智の宗室ありて岩殿へ居りて海路へ
 出ふ。松坂の光源院とてあり。御朱印地。まより
 小麻路所へ入ふ。左の心のよに諷訪明神
 あり。い里ハ小麻の系とて多ふなりと云
 傳ふ。又武莊野の内ぬも。續く系。小麻の

系ハ小麻とて多ふなり。とていあさる
 かのくに渾一なるがとていあさるい里の名
 と移ふ。知るは所とて左の方を所
 とする。小鹿明神の宮あり
 け御神の安よ立や給ふ。傳ふはあり。又古来の傳曰
 昔首領は信長一老人は地を居て移し来り。別春日
 明神の使者とあり。法書とて。その後人居も法とく
 社もよ。盛業はゆらぐ。かのづら。おと
 小麻の里と峰あり。つりとあり

是より信濃石より小所鳳林寺なる者
御朱又二所なり。遺糸ありて。夜下り
小判伏しととりたる。ふへのぼり洞窟
一つあり。ちよこに少なれ所あり

○般若 三十三番 三十三番へ一里二十所

ふなる村とも般若ありと云。四所のぼり奥の
院わり岩のわりとぬ實子巨船と名なる如
し。長廿二所餘。高般若あり雲をりて

洞谷 三十三番 三十三番へ一里二十所
十六村系余村と云。常屋宿あり

○菊水寺 三十三番 三十三番へ二里

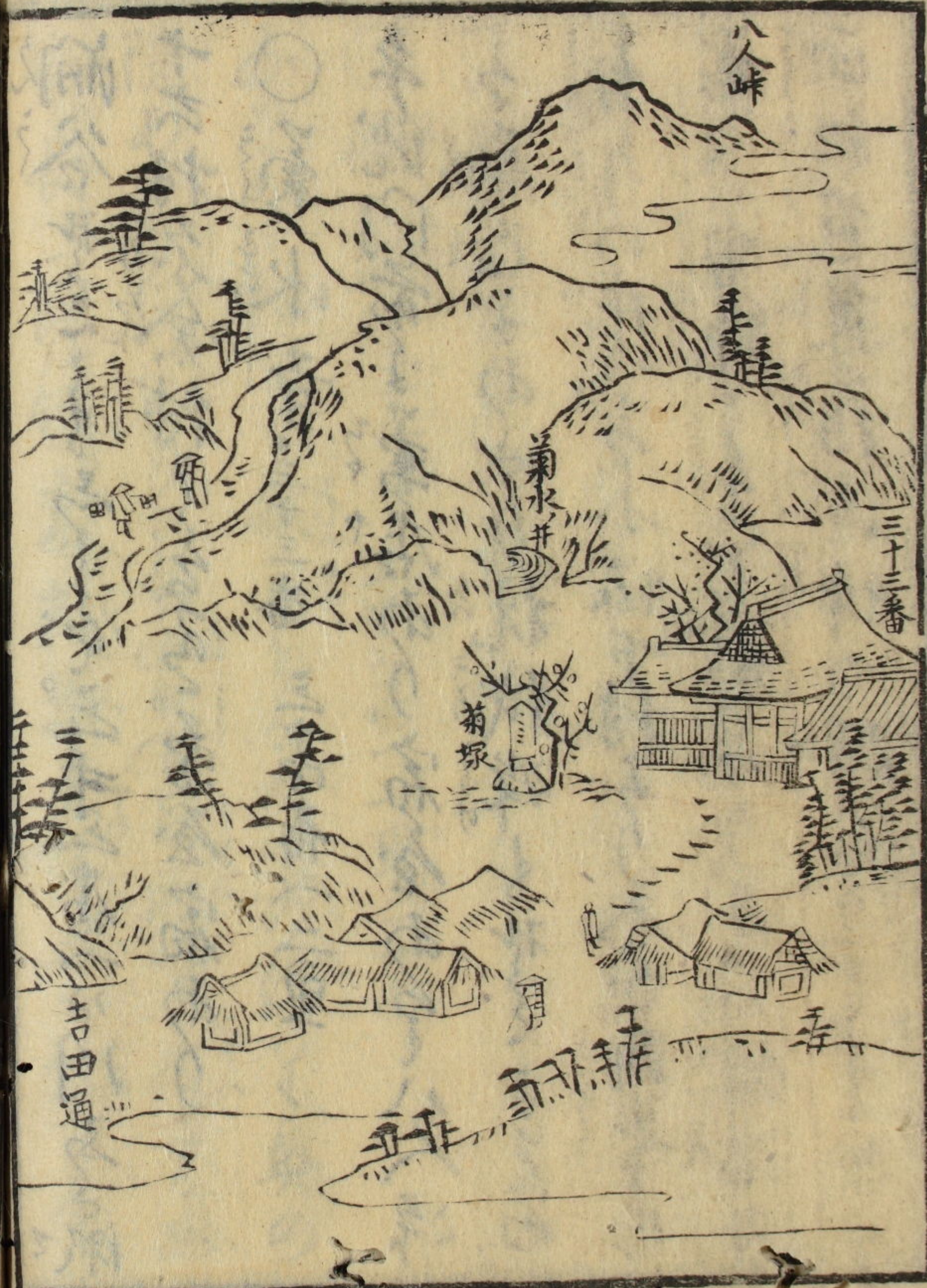
平代門前より葉店あり。宿屋あり八人床
とる辰己よりあり。杭伐跡もせよ見ゆ。
菊水の井つる小坂下村あり入ふ。御堂の
茶の葉塚と云と葉あり。是ハ俳諧の
正徳芭蕉の遺物の碑ありと。さうかハ

いわゆるを交風人連と屋敷にあり十四忌
 の法廷と菊の寺は徳と家あり。たつと
 菊の塚よりさか近吾集もあふ。その
 碑面は石の透冷と刻あり
 さき菊や松探ののさか印の塚
 別荘菊の石の蹟と怪んで。塚の壘とせり
 とて。菊の寺と出て。六所探行。後戸川
 とて。冬より春まで橋あり。まより川

秩父

案内記

七二



秩父

案内記

七三

二階せこへく吉田所あり。け宿の積たまりは八幡
 文ふみなり。やうらひのし。け八幡宮やま、富士
 を志こころ建立たてあり。由来ゆきけ鶴つるの窟くわといふを
 秩父ちちぶ十郎武綱しゅうらふたけつなの居城いじやうなりと伝つたへ。其名
 も相州鶴さうしゅうつる園かきと稱なづけられたり。秩父
 十郎武綱しゅうらふたけつなは重志しげし四代の祖そと源義家げんぎけ
 の侍さむらいなり。富士ふじと稱なづけられたり。其先
 重融しげふさの時とき武州ぶしゅう男おとこ衾かみ那な富士ふじの邑むらに居いて
 後のち始はじりしとて我われ居城いじやうの跡あとあり。又吉
 田所よしだと出でぬけて川がはと流ながれ、右みぎの方に清泉しみづ
 寺てらあり御朱印地。左ひだりの方かたは井原いづはらの宮みやあり。け井原
 寺てら大明神あきみじんなり。寺てら一ひと殿どの、猿田さるた彦ひこ大神おほいなり。
 其外そのほか春日かすが日ひ西にし殿どのとあり。始はじり日本にっぽん武ぶるる東とう夷い
 征伐せいばつの時ときけあらしにあり。其時そのときけあり。予かこ
 光みつと放はなつ。主しゅ所しよと明光あきみつ場ばと云いふ。金剛院きんぐわん有あり
 御朱印地ごしゆいんち。是こゝに
 二十にじゅう所しよあり。其その中なかに別わか標ひらの木きの根ねあり。水みづ

續

御朱印地

金剛院有
御朱印地

と造ひ給ふ。孫田彦の久保家も現一
東征の守とありん。とらざらふ。是も
龍と括云て結と。又春日四所と繋り
もふ。入皇六十一代朱雀院の御宇。依
を秀郷平の将門征伐の先。空所と合
ふ。ふ。別造陽の吉田と學ひて。神と
なり。も。郷の名も吉田と稱り
と。則延喜式神名帳。侍。孫の神社是

なり。又井の字と加ふる事。一社傳來の
名あり。と。交。城。山。と。若田所あり
成。交。よ。ん。ある。山。と。お。門。の。古。株。あり。と
ふ。今日。其。跡。跡。まで。牡丹。芍。薬。の。類
と。外。花。木。多。く。莖。古。谷。茶。の。根。を
と。取。り。拾。ひ。得。ふ。もの。有。い。く。多。吉
株。と。い。ふ。か。り。其。城。を。さ。さ。ふ。も。ま。ま
傳。ふ。と。又。嵐。の。宮。と。孫。の。末。社。あり

孫田彦
孫田彦
孫田彦

幻子の林と云ふと云。織や将門敗軍の
 遺。崩多くおく。兵具と喰破あるありし。
 是秀郷丹精あり。げ大神の玄懸と
 ぶつさう。又井原の社はつんで。寶物多
 し。げ宮と一所かたりて。阿蘇通と云
 わりて。あほ(あふ)又久長通と云ふこと。
天誣寺有 赤朱印地 れ立派と紙と。路のくくはらよ
 湯秋清ありと云ありし

△赤岩案内并畧縁起

是より西にあつて。赤岩と云所あり。むし
 の絶境非頼の道跡あり。あはらばあは
 なるへ。跡あり。妙応ふ島織の親世音。此
 かん不可量の迹。此より立寄あり。たよ。畧て
 縁起と加ふ

道は下より一里余。小川二瀬馬駕御坂六所
 坂中よりたのび。自然石の大目。立給

本とみく。地蔵尊と化す給ふ。其外尺餘の
佛像あり。立くも人とも。千歳の西谷多
く。雨あめのく。光り。朽瘞せり。又岩壁は
救千の小佛と彫つるあり。就宮岩山子
同。率乎け境ら。秩小子標とく。絶頂
百歩をり。九折盤回救百歩の間。峯く。ら
爰石峩く。か削壁攪長羅援飛莖あか
ぎんとのる。るもわ。に龍藏香刹も

赤岩と薨と。石と椽と。佛や赤岩のく。は
なり。る。ふ。の赤城の。も。な。よ。わ。む。く。べ。し。
適く。は。迦伽の水と。刻才取泉。頼唐花。文。ね。取
氷。壯。葉。玉。調。一。峰。晴。と。南。よ。む。く。ら。飛。花
丹。楓。つ。と。も。去。秋。の。依。よ。當。つ。草。よ。女。園。田。と
云。里。あり。昔。妙。所。は。何。米。と。つ。か。富。家。の。一。女
あり。く。推。して。母。よ。く。な。と。後。母。の。か。け。を
と。と。且。暮。な。と。ふ。け。前。河。く。入。あり。せん。と。思。ひ

後記

定めく密に国とありひ出に白衣と云り
 一 女姓来て曰。汝らむるふりかき。只我は
 伴ひあの密子の如く。この世に補陀落世
 歎して。百味の飲食五彩の衣服一つも
 具あはれし。いりあふかり。去りて。我ありま
 つる。眼と閉よと。女唯しく教よ。去りて
 刹那み。く。你回よ。汝は。汝は。女姓の廻
 じらど。小女感歎して。涙落。み。折投地。女姓

時よ曰。く。びや。中央に端巖妙相あり。月
 頃汝ら舞く。まふ。観音大士。又たりの岩上は
 給つらる。地藏尊なり。我ハ此里の猿。誦
 の神なり。お母り信心の感よ。い。女いま
 二の救護と得ら。是より大善根と後
 しく得脱の縁と結。て。云て。去ぬ。小女
 茫然として。密中よ。お母り。救目。を。けり
 大乗妙典と稱する事と知ふ。く。て。富家の

新編

佛言

新編

あらう女^{まを}所^{ところ}在^あと^と毆^う子^こ。本^{もと}爲^なの^の後^{のち}子^こ舌^{した}強^かく
 て^て産^うせり。則^{すなは}小^こ女^め子^こ細^こく^く結^むり^ま及^{およ}て^て免^く道^{みち}後^{のち}
 々^々に^に繼^つ母^はも^も千^{せん}悔^{かい}して^て俱^{とも}子^こ信^{しん}者^{しや}と^とか^かかり^り於^お
 此^{こゝ}實^{まこと}と^と指^さて^て一^{いつ}字^じの^の莊^{じやう}嚴^{げん}と^とあ^ある^る。是^{こゝ}之^の女^め園^{えん}田^{でん}
 常^{つね}刀^{たう}と^とあ^あん^んい^いつ^つふ^ふ人^{にん}あ^あり^り作^しり^りと^と今^{いま}之^の昔^{むかし}物^{もの}後^{のち}也^{なり}
 純^{じゆん}徳^{とく}寫^{しやう}以^{もつ}奉^{ほう}之^の耳^{みみ}蓋^{おほ}此^{こゝ}境^{かやう}衰^{しやう}廢^{はい}數^{すう}百^{ひやく}歲^{さい}
 有^あ三^{さん}峯^{ほう}山^{さん}之^の日^ひ光^{くわう}上^{じやう}又^{また}近^{ちか}繼^つ絶^つ予^よ又^{また}日^ひ板^{ばん}
 三^{さん}峯^{ほう}山^{さん}中^{ちゆう}興^{きやう}國^{こく}字^じ記^き者^{しや}者^{しや}決^{けつ}之^の

○ 名 潛 三十四番 札所終

山^{さん}あり^りと^と清^{せい}堂^{だう}の^の傍^{かたわら}に^に穴^{あな}あり^り。洞^{どう}中^{ちゆう}に^に乳^{にゅう}房^{ぼう}
 石^{いし}乳^{にゅう}母^ぼと^とあ^ある^る。其^{その}外^{ほか}弘^{こう}法^{ぽう}大^{だい}師^しの^の靈^{れい}跡^{せき}
 々^々々^々に^に傳^{でん}ふ^ふる^る不^ふ多^た也^{なり}。禁^{かぎ}と^と日^ひ野^の沃^{わく}と^と云^い
 常^{つね}庭^{てい}あり^り。是^{こゝ}より^{より}河^か久^く向^{むか}通^{とほ}の^の水^{みづ}又^{また}所^{ところ}。
 日^ひの^の沃^{わく}と^と云^いと^とあ^あり^り空^{くう}漸^{ぜん}と^と云^い瀑^{ばく}布^ふあり^り。
 絶^つ系^{けい}あり^り。不^ふ動^{どう}を^を立^たて^て下^{くだ}ノ^の靈^{れい}驗^{げん}い^いら^らふ^ふ
 事^{こと}。必^{かならず}に^に精^{せい}進^{しん}也^{なり}。又^{また}世^よ嗣^しあり^り記^き

矢心

〇 深野

四十一

婦人^{おんな}夜^よに宿^{しゆく}し^て祈^{いの}ふ^かま^りあ^りあ^り
とや^りあ^りあ^りか^し。願^{ねんねん}禮^{れい}の^たた^へつ^て
い^ふか^し。

さ^らら^らあ^の比^ひ

お^のり^あせ^るを^て

出羽行脚

葛籠

空^{くう}遊^{ゆう}子^こ山^{さん}葵^{あひ}の^まあ^り山^{さん}鹿^か
又^{また}あ^り遊^{ゆう}ら^る七^{しち}所^{しよ}行^ゆく^左の^{かた}方^{はた}に^て
南^{なん}陽^{やう}山^{さん}善^{ぜん}福^{ふく}寺^じと^て。四^し十^{じゅう}八^{はち}如^{にょ}來^{らい}の^ま

一^{いつ}言^{ごん}と^て祈^{いの}ふ^かま^りあ^りあ^り
と^も多^たし。願^{ねんねん}禮^{れい}の^たた^へつ^て
お^のり^あせ^るを^て。柳^{やなぎ}井^い善^{ぜん}光^{こう}寺^じ如^{にょ}來^{らい}の^ま家^け
ま^た祈^{いの}ふ^かま^りあ^りあ^り。中^{ちゆう}縁^{えん}と^て。本^{ほん}多^た善^{ぜん}光^{こう}秩^{しつ}
父^ふの^い靈^{れい}場^{じやう}と^て。老^{らう}づ^りに^て祈^{いの}ふ^かま^りあ^りあ^り
山^{さん}鹿^か例^{れい}あ^りあ^り。さ^らら^らあ^の比^ひ。是^{こゝ}ら^り南^{なん}
川^か系^{けい}子^こ各^{かく}陽^{やう}の^ま涌^{ゆう}出^{しゅつ}と^て。結^{むす}ひ^の枝^{えだ}
字^じと^て。得^えら^るる^にて^は。不^ふ國^{こく}に^て歸^{かへ}る

矢心

和父

四十一

和
○
四十三

あの一尋と負^{おん}事^{こと}ありし。後^{のち}よ安^{やす}密^{みつ}也
と^と我^が。是^{こゝ}より二十^に一^{じつ}町^{まち}は路^{みち}と^とり
く。西^{にし}國^{くに}者^{もの}あり乃^{すなは}又^{また}二^にツ子^この^の進^{しん}て
たりし上^{かみ}及^{およ}妙^{たう}義^ぎ榛^{しん}名^な山^{さん}石^{いし}八^{はち}江^え入^{いり}へ
西^{にし}京^{きやう}海^{かい}邊^{へん}あり

秩父獨業内紀 終



